

## 【背景】

坂井輪地域では、新通小学校の分離新設校（新通つばさ小学校）の整備をきっかけとして、実行計画の検討に着手し、平成30年9月から翌年1月までの全3回開催されたワークショップなどで得られた成果をもとに、実行計画を策定しました。

## 【再編の実施時期】

新通ひまわりクラブの新通小学校校舎内移転や新通ひまわりクラブ第1の学校・地域利用は、新通つばさ小学校開校後に整備を行います。また、児童館機能の全市的なあり方検討を踏まえた坂井輪児童館の方針検討は短期的に、坂井保育園の民営化は中期的に取り組みます。今後の詳細検討や財政状況などにより、再編時期や内容については適宜見直しを行います。

## 公共施設の再編計画

【コンセプト】 子育て支援機能の集約化による機能・安全面の強化、民間活力による施設整備

### 【施設の概要】

- 新通ひまわりクラブ第1、2、3を新通小余裕教室に移転
- 新通ひまわりクラブ第1の移転後は、施設を学校・地域利用で活用し、第2、3は解体・借地解消
- 坂井保育園の民営化として、民間保育園を適地に誘致
- 西川荘は高齢者の交流の場としての機能を既存施設で確保（耐用年数を迎えても機能を維持できる間は存続）

### 【効果】

- 新通ひまわりクラブ第1、2、3が、校舎内に移転され、安全面が強化
- 学校と地域との交流の場や地域利用により、地域の活性化や多世代共生・交流につながる
- 適地移転により、送迎車による渋滞解消や通学時の安全性向上、プール利用時の防犯面が強化され、民間活力導入により、休日保育などサービス拡充の可能性、コスト削減により財政負担が軽減が期待される
- 利用の年齢制限がある高齢者の交流機能を公民館等に移転することで多世代交流が期待される

### 【坂井輪児童館】

- 今後の全市的な児童館機能のあり方を検討したうえで、方針を決定

### 【坂井輪児童館に関するWSなどの意見】

- 民営化によりサービスが充実するのでは
- 公民館や健康センターへ移転することで子育て相談が容易になるなど、利用しやすくなるのでは
- 子育て相談機能の維持・・・など

## 短期的に再編を実施する施設の方針及びスケジュール

施設名	方針	年度				
		2019	2020	2021	2022	2023
新通小学校	教室の一部をひまわりクラブに転用	ひまわりクラブ転用検討	設計（新設校開校）	工事後、ひまわりクラブに転用	→	→
新通ひまわりクラブ第1	余裕教室へ移転学校・地域利用			移転後、学校・地域利用	→	→
新通ひまわりクラブ第2	余裕教室へ移転			移転	解体借地解消	
新通ひまわりクラブ第3	余裕教室へ移転			移転	解体借地解消	
坂井輪児童館	継続検討	全市的視点による検討	方針決定	対策実施	→	→

## 中期的に再編を実施する施設の方針

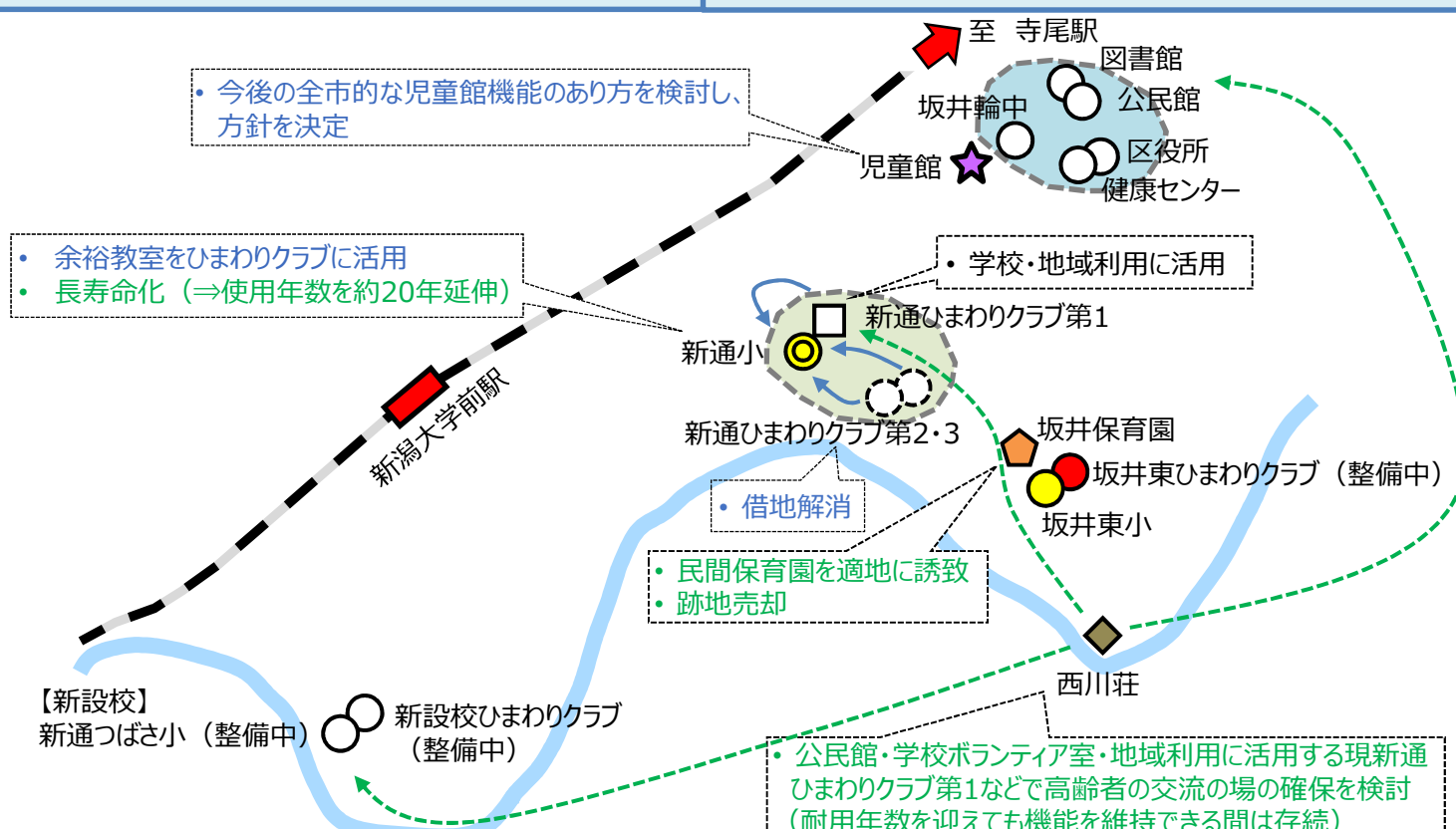
坂井保育園	民営化	概ね10年後の民間保育園誘致に向けて、概ね5年後までに具体的なスケジュールを決定
-------	-----	--

## その他の施設の方針

新通小学校 坂井東小学校	存続	学校のあり方については、将来の児童生徒数の状況を踏まえながら、適切な時期に改めて地域と共に検討
坂井輪中学校	存続	概ね20年後の施設の更新時期に合わせて、長寿命化や図書館・公民館との複合化などについて、適切な時期に改めて検討
公民館・図書館	存続	概ね20年後の施設の更新時期に合わせて、長寿命化や中学校との複合化などについて、適切な時期に改めて検討
健康センター	存続	
区役所	存続	
西川荘	機能移転	高齢者の交流の場としての機能を既存施設で確保を検討（耐用年数を迎えても機能を維持できる間は存続）
坂井東ひまわりクラブ	存続	

## 【今後の進め方】

- 計画を実施するにあたって下記事項に配慮しながら再編を進めます。
- 高齢者が今まで培ってきた技能や経験を地域に還元できる活躍の場
  - 運営面の工夫などにより、施設の複数用途での利用
  - 駐車場の確保
  - 身近な自治会館や空き家の有効活用



凡例	
● (黒)	短期的取組（～5年程度）
● (緑)	中期的取組（10年程度）
◎	複合化・多機能化
□	用途転用
◇	将来売却・貸付
○	存続
⊙	解体
◻	民営化
☆	継続検討